

「市民参画型道路計画体系の提案と道路網計画における対話技術の開発」

研究代表者: 屋井 鉄雄 (東京工業大学大学院 総合理工学研究科 教授)

現状

行政訴訟の
リスク

部分的で
整合性のない
計画制度

上位計画の不備
上位計画への
PIの欠如

対話技術の
不足
現員数で
PI実施量が決定

研究の目標

総合的な
交通計画体系
の再構築

上位計画への
市民参画手法

PIの現場での
対話支援
システム

研究テーマ

テーマ1
論理的・手続き的
整合性を高めた
計画体系

テーマ2
地域交通計画・
道路網計画における
新たな市民参画手法

テーマ3
自然言語処理技術と
交渉理論を応用した
対話支援システム

研究の効果

政策立脚型の
国土交通行政
への転換

市民参画型
交通計画づくり
の実現

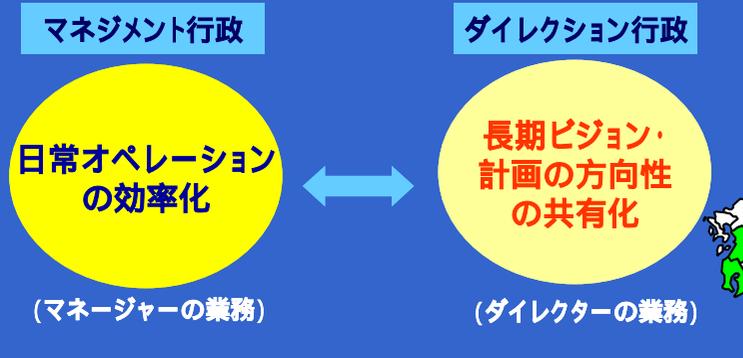
研究テーマ1「論理的・手続的整合性を高めた計画体系」

現状の制度とその問題

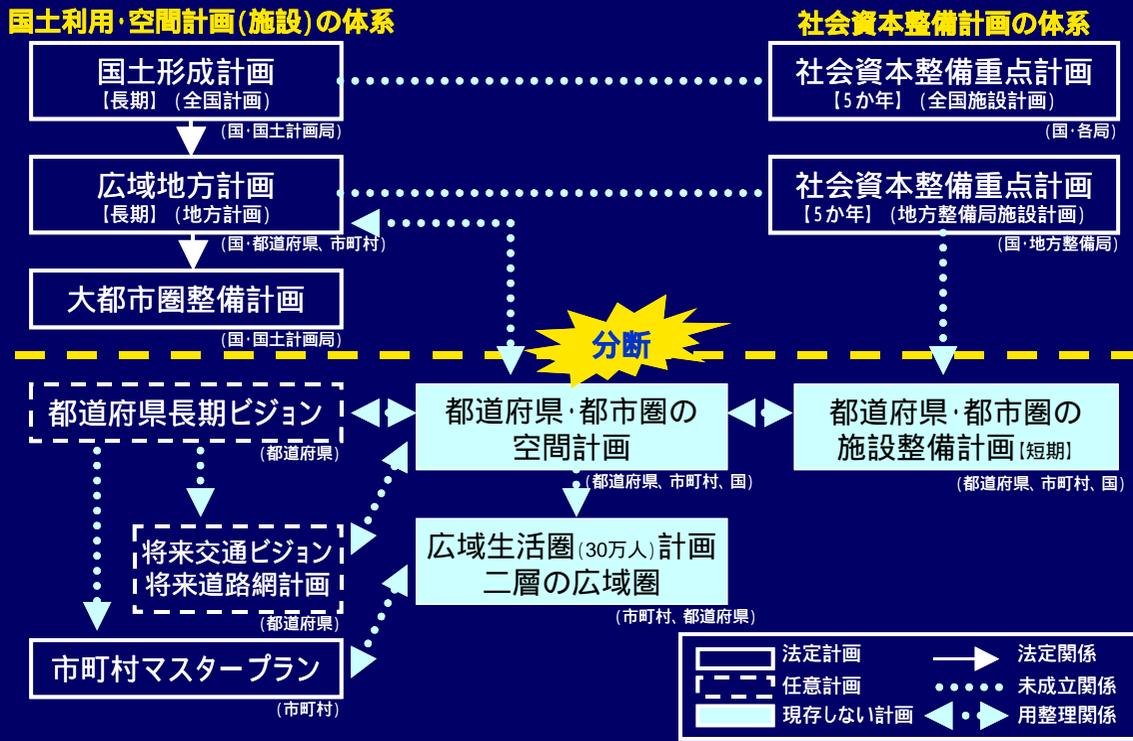
長期計画無き、業績評価(短期)

業績評価に、長期計画・ビジョンを明記している県は17県に過ぎない!

行政の2つの役割をバランス良く遂行



都道府県、都市圏単位の計画と上位の広域計画の整合性が不明確



欧米の計画体系

各国で長期計画の共有が重要課題



	フランス	イギリス	アメリカ
国レベル	[SRU法体系] 国土整備指針 DTA [ヴォアネ法体系] 20年総合サービス計画SSC 旅客及び貨物輸送サービスマルチモーダル計画SSCT 全国道路基本計画SDRN	計画政策声明書 PPS	(SAFETEA-LU)
州・県レベル	15~20年 州整備開発計画 SRADT	地域空間戦略 RSS 地域交通戦略 RTS 約15年 総合交通調査 MMS	約20年 州長期交通計画 SLTP 州交通改善プログラム STIP 3年
都市圏レベル	約20年 地域統合計画 SCOT 10-15年(5年毎に更新) 都市圏交通計画 PDU 都市圏事業計画 Le projet d'agglomeration 都市圏道路計画 DVA	1990年代 通達に基づくプロセスの破綻 パフォーマンスベース 地方交通計画 LTP 5年	約20年 都市圏交通計画 RTP/MLTP 主要投資調査 MIS 交通改善プログラム TIP 3年

行政訴訟リスクへの対応

道路行政に関わる司法解決の機会が広がり、道路行政訴訟のリスクは高まる傾向

事前の計画過程の手続きの不適切さが問題視される傾向
単独路線の問題ではなく、ネットワークでの対策や、総合交通としての対策が求められる傾向

上位計画段階における計画根拠の合理性確保

司法解決の道を確認しつつ、上位計画段階で市民が、計画プロセス要件を確認できる仕組み

研究テーマ1「論理的・手続的整合性を高めた計画体系」(つづき)

新たな計画体系の提案

短期計画の定着

NPM(ニューパブリックマネジメント)の考え方に基づく“業務遂行の効率化”のため、短期の業績計画・評価が定着

長期計画の必要性

長期の目標(アウトカム)と、あるべき姿(空間計画)を示し、地域ビジョンを共有することが重要

長期 / 短期の融合

短期計画と長期計画の融合による実現プロセス両者をPDCAサイクルとして体系化

長期道路網計画と短期業績計画(戦略計画)の融合型計画プロセスを提案

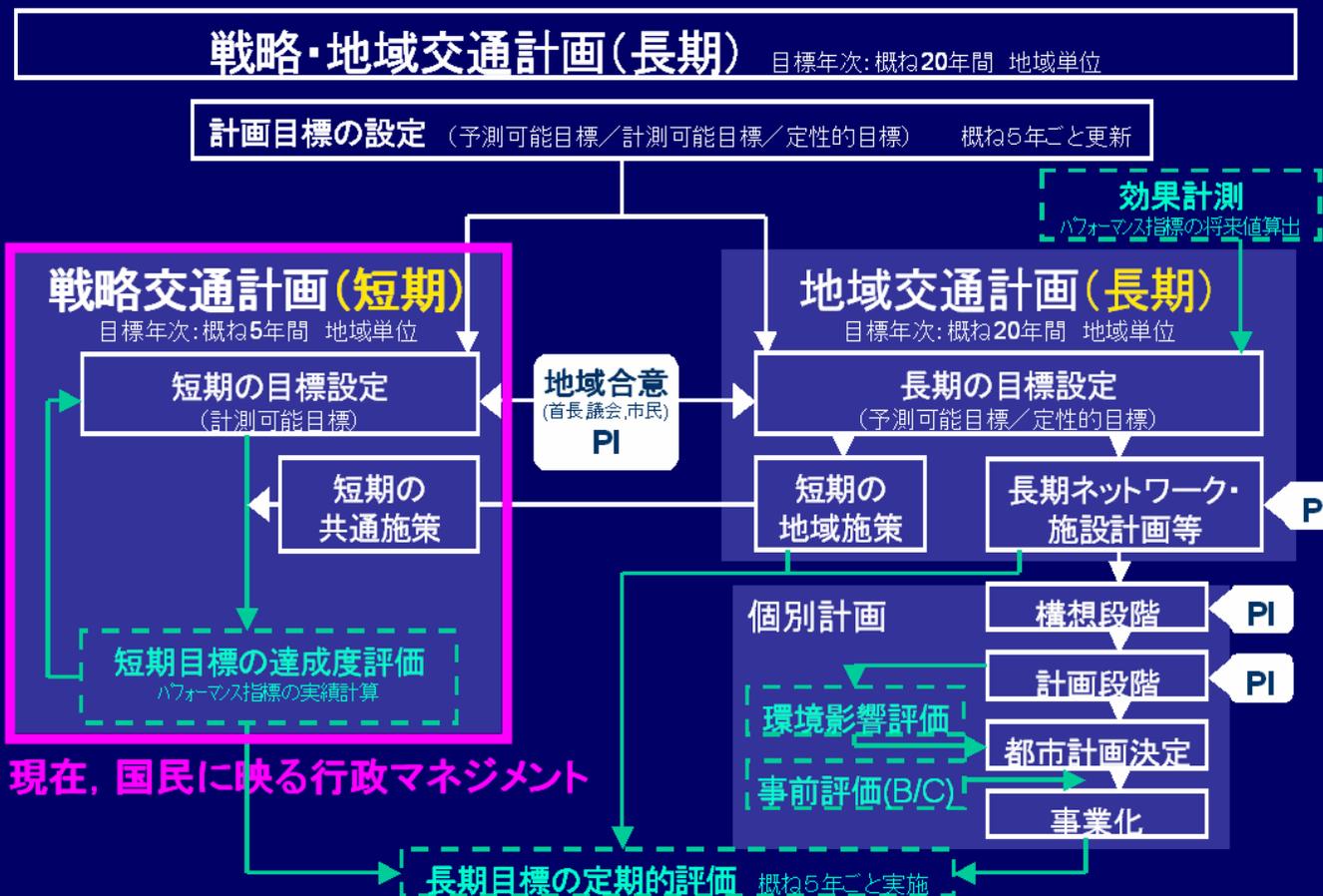
地域高規格道路を含む 地域交通計画のイメージ

対象とする道路網

新設道路
維持・改修を含む全路線
「長期(道路網パフォーマンス維持改善)計画」

対象計画期間

20年間
5年ごとに更新
数年ごとのチェック



道路種別の計画体系と策定主体

全国NW, 広域NWの一部
県が計画策定、国で承認・支援、
あるいは国が計画を策定、地域で合意
地域ネットワーク(県内)
地域(複数市町村の連合体)が計画を策定、
国が承認・支援

計画・事業承認のための要件

PI実施の要求
地域の負担の明示(地域)
計画の合理性の判断(国と地域)
地域NWでは計画策定主体を工夫し、自主的な広域調整の取り組みを評価
総合交通計画における道路の位置づけの明記を評価

現在、国民に映る行政マネジメント

長期目標の定期的評価 概ね5年ごと実施

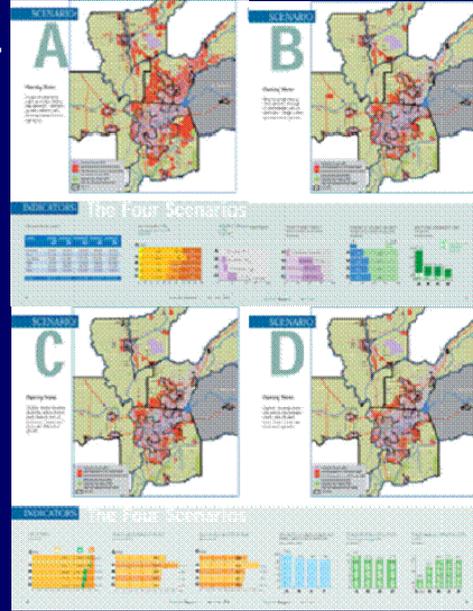
研究テーマ2「地域交通計画・道路網計画における新たな市民参画手法」

欧米のPI動向

上流段階の計画について、シナリオを示すことによって、計画への理解と当事者意識を高める工夫がされている



Sacramentoのシナリオプランニングの例



上位計画段階のPIの必要性

個別計画の拠り所となる上位・広域計画にこそPI導入が必要

抽象的な計画には、市民の関心が低い

PIに求められること

抽象的な計画に対し、市民の関心を高めること
対象が広範囲。多数で多様な意見を収集
収集した意見を効率的に分類・整理すること

マンパワーだけに頼らないコミュニケーション手法が必要

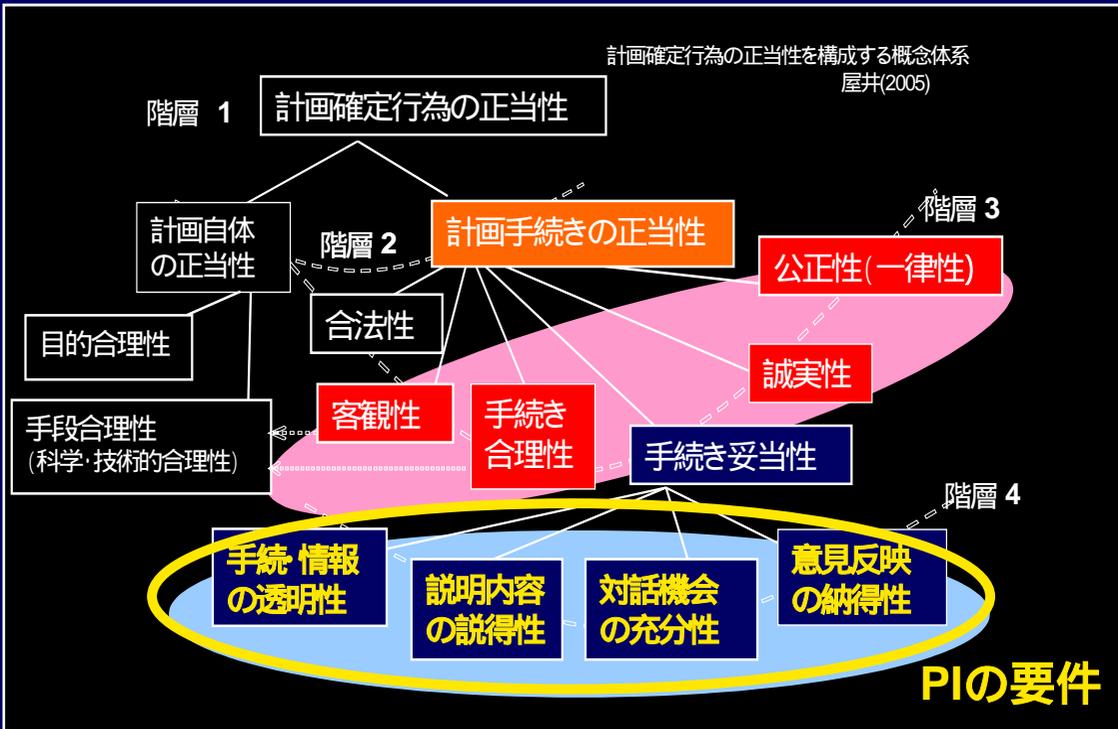
【研究テーマ3】「自然言語処理技術とファシリテーション手法を応用した対話支援システム」

大量な意見処理の負担 意見の自動分類を可能にする
「市民ニーズ分析システム」

アンケート結果からの真のニーズ把握 ニーズを確認しながら意見を収集する「対話型アンケートシステム」

上位計画段階のPIに求められる要件

PIに求められる要件を理論的、体系的に整理



問題点	目標	効果
-----	----	----

理想的なコミュニケーション

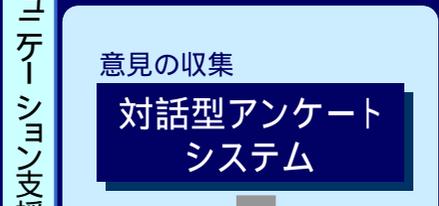


しかし、広域、長期計画では利害関係者が多数多岐に.....

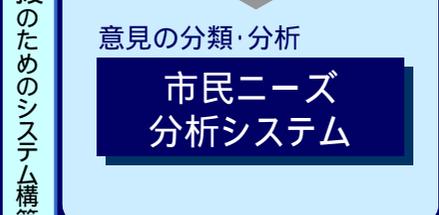
コミュニケーション場面へのアクセシビリティの限界

コミュニケーターによる対話の質のばらつき

自然言語処理技術とファシリテーション手法の応用



- アクセシビリティの拡大
- ニーズ確認による意見の定質化



- 大量意見への対応
- 多様な意見の概観

コミュニケーション支援のためのシステム構築